すくすくテスト・チャレンジテスト

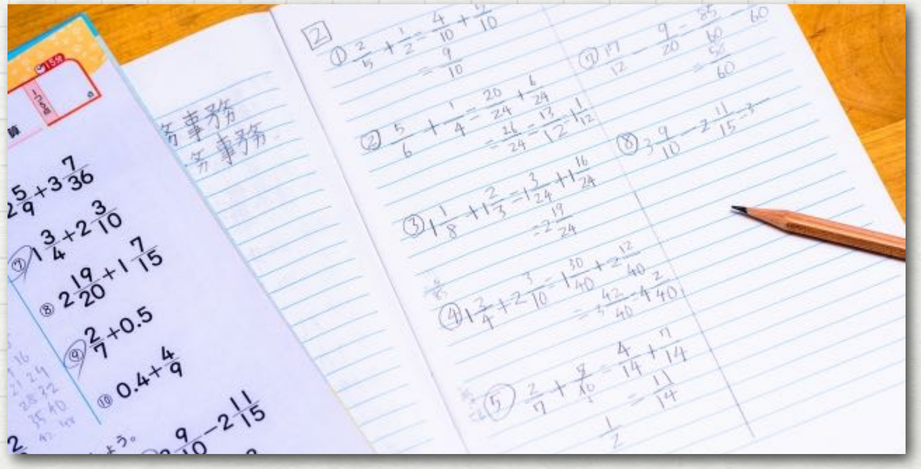
すくすくテスト

2021年5月27日実施予定　以後毎年

５年生＝国・算・理（各20分），
教科横断的な問題（40分）

６年生＝全国「学力テスト」，
教科横断的な問題（40分）

児童・教師にアンケート



大阪府新学力テスト（小学生すくすくテスト）

府教委「調査ではない」＝知事重点事業
子どもの力を伸ばすための事業

全国学力テスト
＝正答率70%以上の問題は、
すべての学校が全国水準に

→

就学援助率と学力
子どもの貧困と学力
一切無視

学力テスト対策のための「テスト」

小学生すくすくテスト実施要項には

趣旨・目的
子どもたち一人ひとりが、
学びの基盤となる言語能力や読解力、
情報活用能力等を向上させ、
これからの予測困難な社会を
生き抜く力を着実につけること

小学生すくすくテスト実施要項には

児童

自らの強みや弱みなどを知って
新たな目標をたて、
強みをのばすことや課題を克服

家庭

子どもの伸びや課題を知り、
子どもを誉め、励ます等

学校

結果公表は可能

小学生すくすくテスト実施要項には

その目的を達成するため、
子ども、家庭、学校、
市町村教育委員会、大阪府教育委員会は、
本テストを実施するとともに…？？？？

多くの市で学力診断テストもやっているのに…

定期テスト，教科担任制も　テスト漬け・対策漬け

チャレンジテスト

チャレンジテスト＝3年の学校の評定の範囲が決まる

元になる評価＝2年の1・2学期評定の平均＝府の平均値

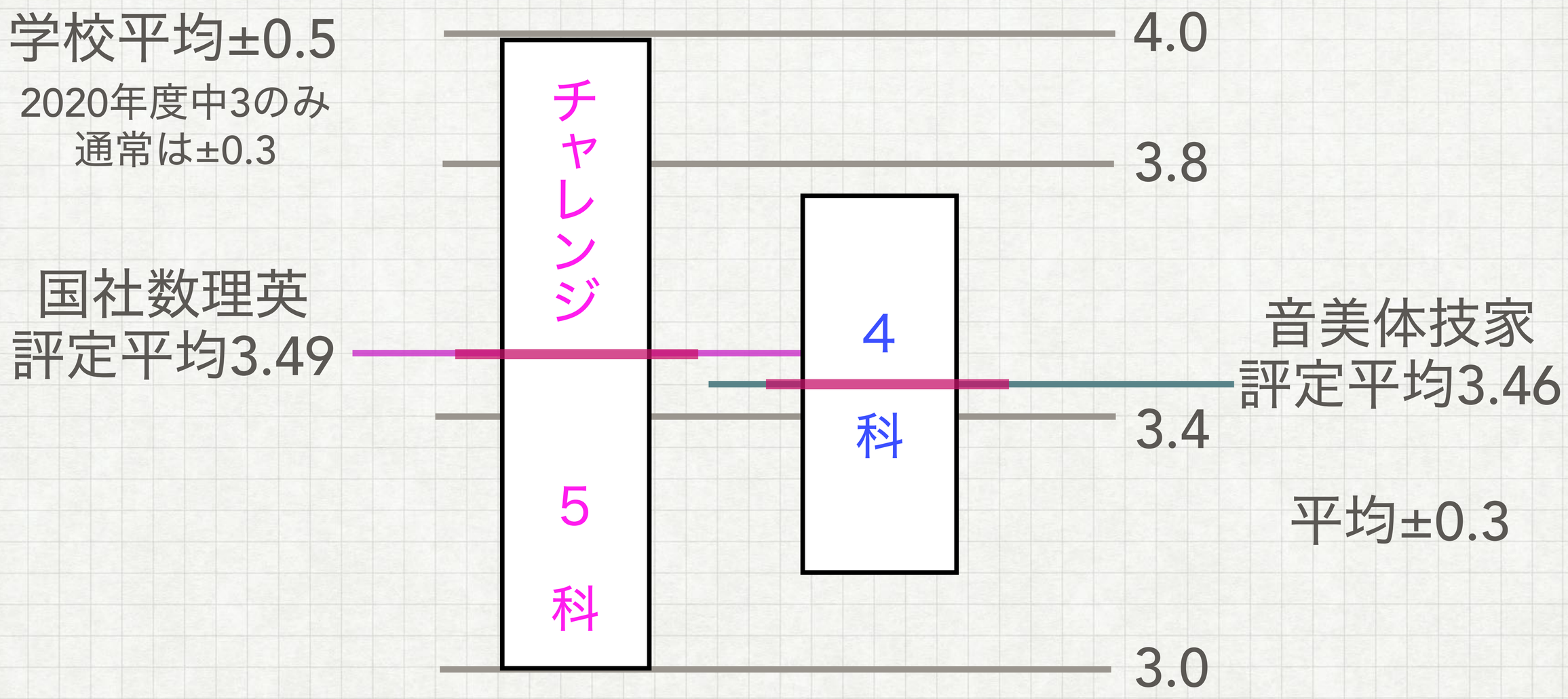
●変更点

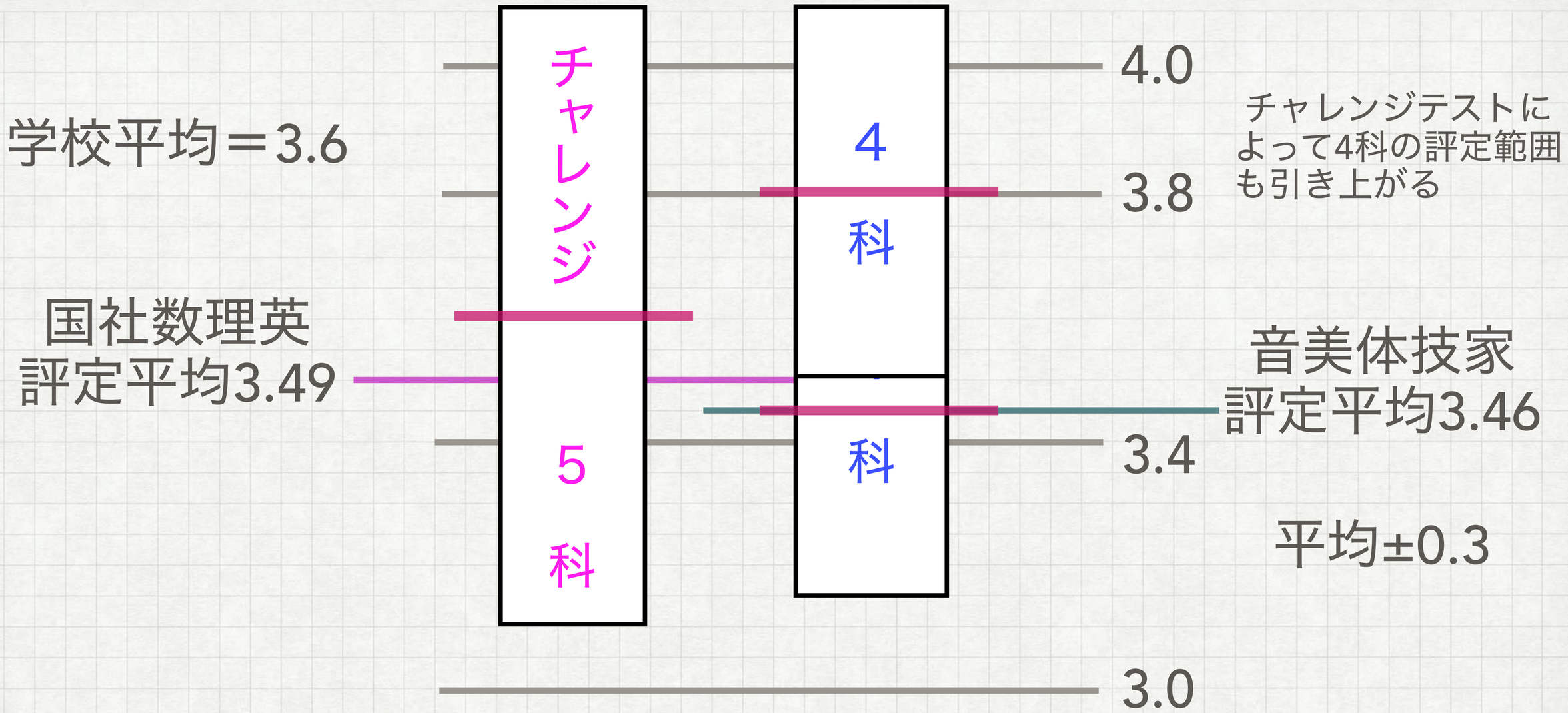
４教科＝２年学年末評定

１・２年生＝団体戦に

中学校全学年が

チャレンジテストに縛られる


学校平均±0.5
2020年度中3のみ
通常は±0.3
国社数理英
評定平均3.49
チャレンジ
5
科
4
科
音美体技家
評定平均3.46
平均±0.3
4.0
3.8
3.4
3.0


学校平均＝3.6
国社数理英
評定平均3.49
チャレンジ
5
科
4
科
科
4.0
3.8
3.4
3.0
チャレンジテストによって4科の評定範囲も引き上がる
音美体技家
評定平均3.46
平均±0.3

実際にどう変わるのか

	A中	B中	府平均
中2チャレンジ平均	54	66	60
対府の比較	0.9	1.1	1
評定平均目安	3.14	3.84	3.49
評定平均の範囲	2.64~3.64	3.34~4.34	

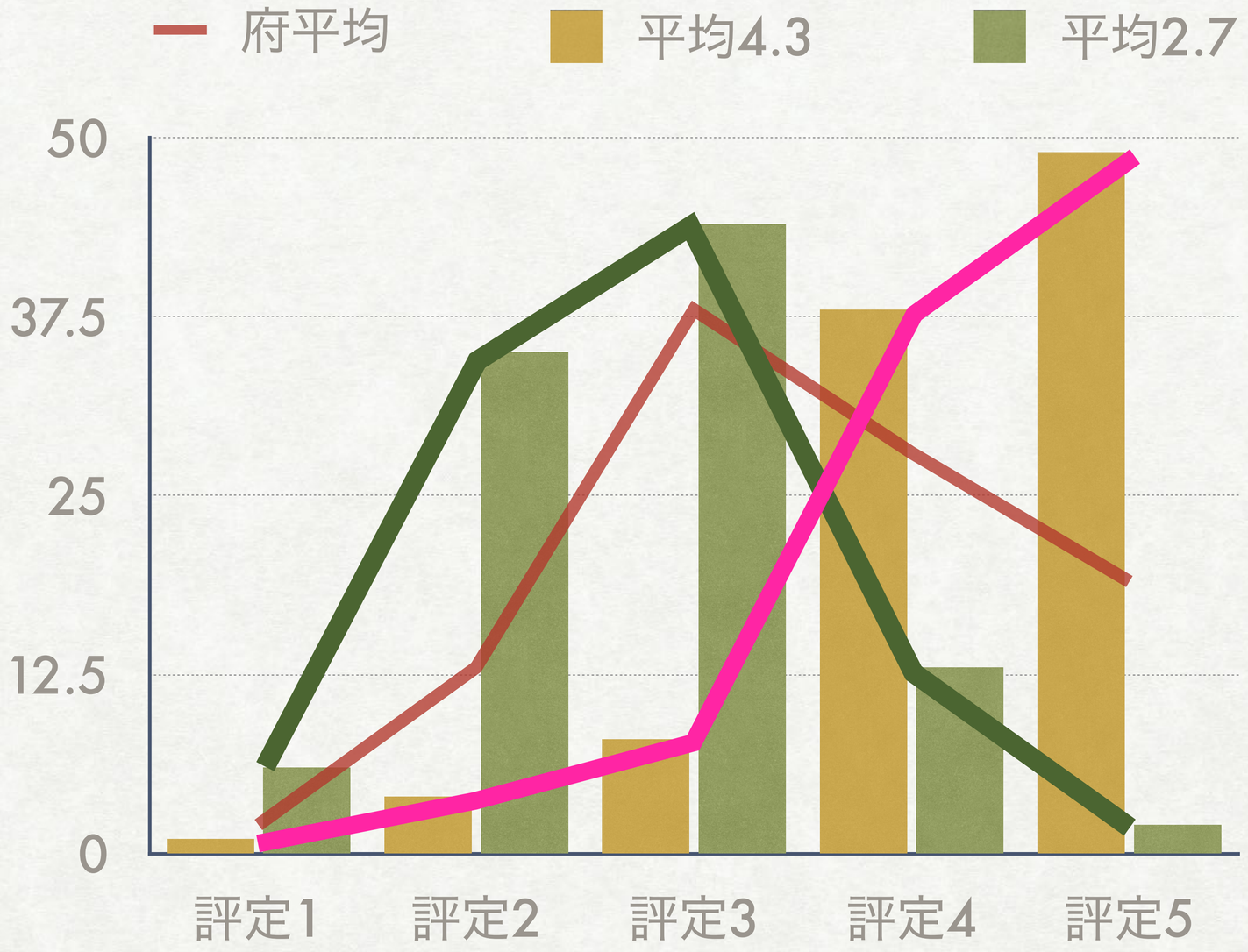
実際にどう変わるのか

評定	A	相対基準	府平均※	B
5	2	6	19	49
4	13	22	28	38
3	44	44	38	8
2	35	22	13	4
1	6	6	2	1
合計人数	100	100	100	100
評定平均	2.7	3	3.49	4.3

評定平均4.3では
評定5が約50人

評定平均2.7では
評定5を増やすと
評定1が増える

※府教委ＨＰより http://www.pref.osaka.lg.jp/attach/6221/00000000/tyousasyo_heikin.pdf


府平均
平均4.3
平均2.7
50
37.5
25
12.5
0
評定1
評定2
評定3
評定4
評定5

５段階評定

１年＝２倍

２年＝２倍　　合計450点

３年＝６倍

評定	2	3	3.5	4	5
1年	36	54	63	72	90
2年	36	54	63	72	90
3年	108	162	189	216	270
合計	180	270	315	360	450

当日のテスト450点

総合計＝900点

3年の評定1つ上がる＝当日のテスト２問分正解

詳しく見ると…

４教科で＋１UP

評定	2	3	3.2	3.5	4	5
1年	36	54	57.6	63	72	90
2年	36	54	57.6	63	72	90
3年	108	162	172.8	189	216	270
合計	180	270	288	315	360	450

25点UP

当初府平均は3.22だったが，年々引き上がっている

チャレンジテストによって

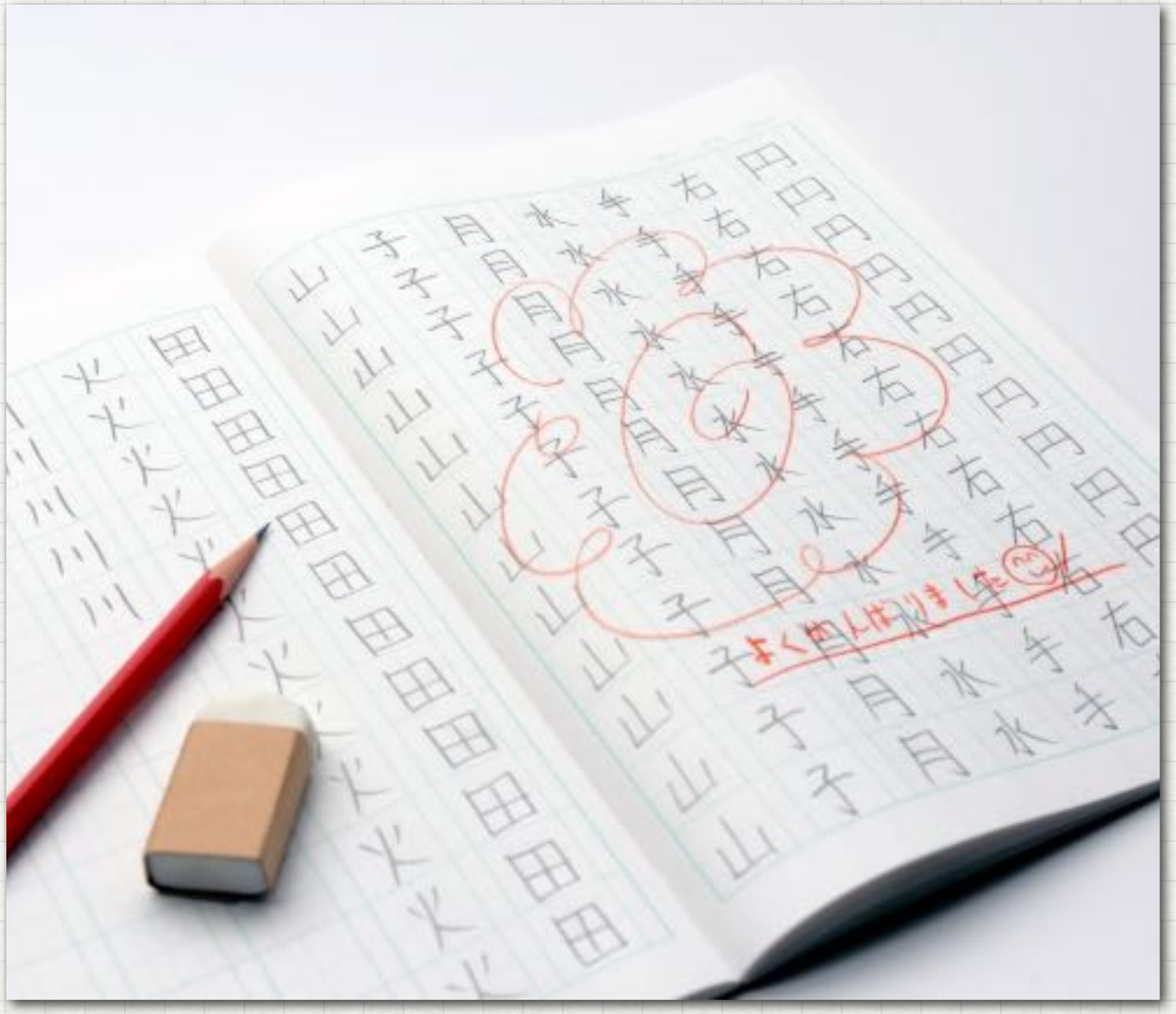
全学年の評定平均の範囲が決められてしまう

3年の府の評定平均は2年生の時のもの

府の評定平均は毎年のように上昇

教科の評価・評定の意味が問われる

単元の配列の移動が困難になっている

→評価も学習進度も縛られている

チャレンジテストによって
中学校の評価が変質
すくすくテストによって
小学校の学習が変質
そうならないように
皆さんで考えましょう